

公益財団法人まちみらい千代田  
第5期 第4回 評議員会 議事録

1 日時

平成30年5月23日（水）午前10時5分～午前11時35分

2 場所

ちよだプラットフォームスクウェア 4階401会議室

3 評議員現在数

9名

4 出席者

(1) 評議員（9名）

野本俊輔会長、鈴木潔副会長、親泊哲、鎌倉勤、熊谷エイ、高橋陽子、高山肇  
谷眞理子、山本久喜

(2) 理事（1名）

立川資久理事長

(3) 事務局（5名）

大塚立志事務局長、佐波玲子グループマネージャー(GM)、堀江正憲GM  
加藤英明GM、伊澤優GM

5 議題

- (1) 議案 第8号 公益財団法人まちみらい千代田 第6期事業計画（案）について
- (2) 議案 第9号 公益財団法人まちみらい千代田 第6期収支予算（案）について
- (3) 議案 第10号 公益財団法人まちみらい千代田 理事の選任について

6 開会、挨拶、定足数確認、議事録署名人の選任

開会に先立ち、事務局が配付資料の確認を行った。定款第25条により、評議員会の議長を務める野本会長が開会を宣言し、立川理事長に挨拶を求めた。

立川理事長の挨拶および第6期事業計画（案）の概要説明後、第5期第7回理事会（平成30年3月30日・書面決議）での承認を得て、事務局長に任命した大塚事務局長が挨拶を行った。大塚事務局長の挨拶に続き、各GMが挨拶を行った。

事務局の挨拶後、野本会長が本日の出席評議員について、事務局に報告を求めた。事務局から出席者と定款第26条の規定に定める定足数を満たしていることを報告し、野本会長が本評議員会は有効に成立している旨を告げた。

次に本評議員会の議事録署名人として、事務局から定款第30条第2項の規定により本日出席の熊谷評議員と谷評議員の2名を提案したところ、満場一致の賛成があり、議長が両評議員を指名したところ、本人もこれを承諾した。

その後、議事に入った。

## 7 議事の経過及び結果

(1) 議案 第8号 公益財団法人まちみらい千代田 第6期事業計画（案）について

(2) 議案 第9号 公益財団法人まちみらい千代田 第6期収支予算（案）について

議長から議事の審議に入る前に、議案第8号および議案第9号は、双方関連があるため一括上程し、審議を行いたい旨の提案があった。この提案に全員異議なく了承したため、配布資料に基づき、第6期の事業計画（案）と収支予算（案）について説明した。

第6期事業計画（案）については、大塚事務局長から事業体系・廃止事業・事務局組織の説明を行った。その後、各GMから担当事業の説明を行った。

住宅まちづくりグループの事業については、堀江GMが説明を行った。

産業まちづくりグループの事業については、加藤GMが説明を行った。

まちづくり推進担当の事業については、伊澤GMが説明を行った。

企画総務グループの事業については、佐波GMが説明を行った。

第6期収支予算（案）については、大塚事務局長から第5期との比較をしつつ、収支予算（案）の説明を行った。また、財団の予算執行にあたっては、千代田区との連携・協力のもとに、健全で明瞭な運営に努めることを説明した。

説明後、以下のような質疑や意見があった。

(評議員)

分譲・賃貸を問わず、マンションの町会加入数を把握しているか。

マンションが増える中で、町会加入促進も重要と考えている。

(まちみらい千代田)

平成25年の分譲マンション実態調査で町会加入状況について、調査している。調査対象約430棟のうち、250棟から回答があり、重複もあるが、約半分が組合で町会に加

入している。(組合加入が125棟・個人加入が32棟・未加入が33棟・わからないが48棟)

本年実施予定のマンション実態調査でも、町会加入状況について調査するので、調査結果を報告する。

また、町会加入促進については、町会役員の方の働きかけと連動して、マンション施策を推進する中で、寄与していく。

(評議員)

町会加入を条件とした家賃助成制度があると思うが、具体的な助成要件を教えてください。

(まちみらい千代田)

千代田区の助成制度のため、詳細を確認後、あらためて説明する。

(評議員)

分譲マンションの町会加入について、懸念している。マンション住民は、町会費の使用用途に疑念を抱いており、町会側は、大規模マンションが地域に建設されると町会が乗っ取られるのではないかと心配している。

また、住戸数に応じた町会費を払っているのに、マンション全体で町会総会の議決権が1票しかないことに不満を持っている人もいる。

これらのことを千代田区の問題として捉え、町会費の扱いや徴収方法、総会の議決権などについて、ルールを決めることが望ましい。

(まちみらい千代田)

それらの問題については、神田公園地区の前連合町会長が問題提起し、町会規約モデル案を策定した。モデル案では、マンション住民も1人1票となっており、いくつかの町会がそのモデル案どおり、町会規約の改正を行った。また、マンション管理費から町会費を納めることには、国交省のマンション標準管理規約から見ると問題がある。

(評議員)

マンションの管理費から町会費を納めることが適切でないとなれば、町会に入ってもらうこと自体、困難になる。

(評議員)

近年多い費用徴収の手法は、マンションの各区分所有者から管理費修繕積立金とは別の名目(地域コミュニティ費や町会会費など)で収納し、管理費と財布を分けるマンションが増えている。町会費への支払いとして徴収した費用ではない管理費から直接支払うことは、やはり適切ではない。

(評議員)

大規模修繕工事債務保証料助成の上限50万円は、債務保証にかかる手数料ではなく、

債務保証料を助成するということか。

(まちみらい千代田)

詳細をのちほど回答する。

(評議員)

公益法人財務の3基準である「収支相償」についての説明はあったが、「公益目的事業比率」「遊休財産額保有制限」は、この予算書でどのような数字になるのか把握しているか。予算書の中に、この3基準をクリアしていることを掲載してはどうか。

(まちみらい千代田)

公益法人財務の3基準をクリアしていることについては、次回評議員会で報告する。また、予算書への掲載については、検討する。

(評議員)

起業塾卒業生の起業実績はどれくらいか。

(まちみらい千代田)

こちらで把握している起業者数は、第5期は6名で、これまでのトータルは卒業生約360名に対して、30数名である。日本の起業率は5～6パーセント、欧米は15～16パーセントと言われている中で、トータルの卒業生の割合でいうと受講者の約10パーセントが起業している。

(評議員)

以前の評議員会で、管理会社との連絡会では参加者が集まらないとの報告があったが、第6期では同様の方法で開催するのか。

(まちみらい千代田)

本年実施するマンション実態把握調査の結果報告を含め、情報提供を中心として開催する。

### (3) 議案 第10号 公益財団法人まちみらい千代田 理事の選任について

大塚事務局長から議案第10号について、説明を行った。

明治大学社会連携副機構長の矢ヶ崎淳子氏と千代田区地域振興部長の細越正明氏を新たな理事候補者として提案した。

それぞれの理事候補者を評議員に諮ったところ、全員異議なく、議決した。

## 8 閉会

以上をもってすべての議事を終了したので、午前11時35分に議長は閉会を宣言した。

上記の決議を明確にするため、議長及び評議員がこれに署名、押印する。

平成30年5月23日

公益財団法人まちみらい千代田  
第5期 第4回 評議員会

議 長 野 本 俊 輔 ⑩

議事録署名人 熊 谷 エ イ ⑩

議事録署名人 谷 眞 理 子 ⑩